

組織的な学校運営に関する実践研究指定校の主な取組と成果・課題

◆ 「組織力の強化」

	取組の内容	成 果	課 題
岩国市立 麻里布 小学校	○複数教頭の位置付け・役割分担の見直し ○事務職員の職務内容見直し	○第2教頭が教員の授業力向上を担当し、授業評価書を活用することにより若い教員の授業力が向上した。 ○事務職員が学校運営に参画することにより、教職員の事務業務に対する理解が深まった。	○教頭と教職員の人間関係づくり ○教頭と教務主任、研究主任との連携の強化 ○事務主任に業務加重
山口市立 良城 小学校	○中堅教員のリーダー意識の高揚と資質の向上 ○事務の共同実施の効果的運用	○分掌リーダーと教頭が分掌会議前にミーティングを持つことにより、中堅教員の組織運営上の視野が広がった。 ○保護者徴収金処理業務の移管により学級担任の負担が軽減した。	○教頭業務の効率化
光市立 浅江 中学校	○プロジェクト方式（校務分掌を6部構成から3部構成に再編）の効果検証 ○企画調整部の設置効果の検証	○教職員全体がプロジェクト推進の自覚と意欲を持つようになった。 ○努力目標の共有化・重点化が図られている。 ○議案の事前検討により、職員会議のスムーズな進行ができています。	○プロジェクト方式のさらなる検証 ○十分な協議を行うための時間の確保
防府市立 桑山 中学校	○3グループ・7プロジェクトチーム体制による校務分掌運営の推進	○教育課題の重点化と役割分担の明確化及び教育活動のスリム化が図られた。 ○教員の学校運営への参画意識が高まった。	○プロジェクト間で重複する事業の調整 ○地域との連携等、新たな課題への対応
美祢市立 大嶺 中学校	○学年主任を主軸とした組織化された学校運営体制の構築 ○起案文書の回覧、決裁における学年主任の責任の明確化	○教職員の学年主任への相談体制が確立した。 ○主任の意識改革、ミドルリーダーの育成が進んでいる。	○学年を軸とした分掌組織のプロジェクト方式への移行 ○SWOT分析による学校の「強み」を生かしたボトムアップ型の学校運営の改善策の検討
県立 岩国 高等学校	○教頭による本・分校の校務分掌の横割り担当制 ○円滑な課題解決のための大規模校における組織づくり ・教科チーフ、学年チーフ ・プロジェクトの設置	○本・分校の効率的かつ組織的な学校運営がなされるようになった。 ○本・分校間の分掌業務の円滑な連携がなされるようになった。 ○学校の改善に対して、教職員に参加意識が強まった。	○本・分校間の連携の一層の強化 ○新たなプロジェクトの設置等、組織の柔軟な運営
県立 山口 高等学校	○機能的、機動的な組織づくり ・教頭の役割分担の明確化と連携の強化 ・校務分掌の一体的遂行	○5人の教頭の情報交換が活発化し、協働して業務遂行に当たっている。 ○本校の各課程及び分校の各分掌の連携が進み、一体的な業務遂行が行われている。	○本・分校が協働して取り組む業務の円滑な実施 ○各教頭の業務内容をまとめた年間計画の作成と協働体制のさらなる充実
県立 豊浦 高等学校	○教頭単数配置校における教頭と各主任の役割分担（教頭の専決事項の研究） ○タスクフォース（一課題一専任チーム）方式の導入による学校課題への対応	○定例的な出張伺いについては教頭がすぐに判断できるようになり、旅費請求の遅延事例が減少した。 ○地域や保護者からの学校への要望の8割が解決している。	○教頭と旅費担当事務職員の連携 ○タスクフォース方式と校務分掌体制の効果的な使い分け
県立 下関中等 教育学校	○中等教育学校推進課の設置 ○複数教頭の機能的な役割分担の検証 ・複数教頭を第1教頭・第2教頭とせず、前期担当・後期担当として位置付け	○特色ある取組の担当一元化により、国際交流に関して、多様なプログラムを組み合わせ、より専門的で幅広い対応が可能になった。 ○複数教頭による諸課題への適切な対応ができています。	○教頭間の頻繁な情報交換による情報共有の必要性
県立 下関南 総合支援 学 校	○多忙感を解消するための分掌業務や会議等の精選 ・委員会数、委員数の削減 ○ミドルリーダーの育成を図る組織的取組	○会議の効率化や精選により、時間の有効利用が図られ、部活動の活性化等が行われている。 ○中堅教員の学校運営への参画意識が高まっている。	○分掌部長の業務の多さ ○ミドルリーダー育成に係る時間と場の確保

◆ 「ICTの活用等による情報共有、業務改善」

	取組の内容	成果	課題
岩国市立 麻里布 小学校	○資料等の集中管理 ・コンピュータを活用した校務分掌資料や研修資料の集中管理	○資料の作成や共有が効率的に行われるようになった。	○教職員間の伝達システムの構築や電子職員会議の検討
山口市立 良城 小学校	○ICTを活用した児童理解 ・個々の児童の顔や特性を視覚化、担任の状況説明を加えた共通理解 ○教職員評価や学校評価への活用（集計への利用等）	○児童理解が進み、児童への接し方についての共通理解に基づいた実践が行われている。 ○業務の効率化が行われ、負担軽減につながっている。	○ICTの利用の仕方や利用頻度の個人差 ○セキュリティのさらなる改善
光市立 浅江 中学校	○校務の情報化による質の改善とゆとりの創出 ・共有フォルダ活用による情報の共有 ・情報化を推進するための分掌づくり	○校務の迅速化により、子どもと向き合う時間の確保ができています。 ○ICT担当教員を各学年に配置することにより情報の整理が進んでいる。	○情報の更新が常に必要なことによる担当教員の負担増
防府市立 桑山 中学校	○職員室LANによる事務の効率化、指導技術の共有 ○情報伝達の効率化・共有化	○作成文書、学年・教科のワークシート、テスト等の蓄積が進み、業務の効率化が進んでいる。 ○各学年、個人、各プロジェクトからの電子掲示板への書き込みにより、情報共有のスピード化と確実性が向上している。	○職員室LAN担当者のプロジェクトへの位置付け ○書き込み等をする教職員の固定化 ○ICT活用に関する校内研修の充実
美祢市立 大嶺 中学校	○ICT活用による情報共有 ・職員会議におけるコンピュータによる情報提供 ・ホームページの充実及び保護者へのメール配信	○会議前に資料を事前に確認しておくことにより、会議時間の縮減が行われるとともに1回の職員会議で300枚の用紙が節約されている。 ○情報発信により学校に対する信頼度が向上している。	○会議資料の事前確認の徹底 ○ホームページ更新や保護者メールの運営の改善（複数担当制への移行）
県立 岩国 高等学校	○本校と分校の校務分掌等における連携や情報共有の在り方 ・定期的な業務調整会議の実施 ○本校内における伝達事項の効果的な連絡 ・共有フォルダの活用	○行事設定が効率的に行われている。 ○共有フォルダの活用により、全教員に対して効率的な情報伝達が行われている。	○本・分校間の簡便な掲示板等の伝達システムの検討 ○本・分校内イントラの構築等による情報管理の徹底
県立 山口 高等学校	○本・分校における円滑な学校運営のための学校運営検討会議の開催 ○情報のさらなる共有化に向けた工夫 ・新たな情報伝達・共有システムの構築	○全・定・通・分の適切なスケジュール調整が行われている。 ○本・分校間の共有フォルダの構築により、迅速な情報共有が可能になり、本・分校の分掌の連携に役立っている。	○管理職間の日程調整 ○新たな情報伝達システムの効果的な活用の検討
県立 豊浦 高等学校	○校内LANを活用した校務分掌の効率的実施 ・事務処理の効率化 ・職員会議の改善	○共通フォルダ内に分掌ごとの文書等を蓄積することにより業務引継が効率化されている。	○会議のICT化、会議資料のペーパーレス化のさらなる推進
県立 下関中等 教育学校	○前期課程と後期課程の情報継承・情報共有の在り方 ・6学年全ての情報の全教員による共有 ・前後期課程の枠にとられない教科等の人事配置	○前期課程と後期課程の間で情報の継承や共有が図られるとともに、発達段階に応じた指導の在り方について中学採用教員と高校採用教員による相互理解が一層進んでいる。	○発達段階に応じた生徒指導方法の確立
県立 下関南 総合支援 学校	○ICTを活用した情報共有・業務改善 ・視覚障害教員のICT機器の活用 ・会議資料事前提示	○会議が1時間以内に終了するようになるとともにペーパーレス化が進んでいる。	○各部間の連携による業務改善

◆ 「地域等との連携、外部人材の活用」

	取組の内容	成果	課題
岩国市立 麻里布 小学校	○地域等との連携による授業研究や安全教育の推進	○企業等との連携による社会科、理科の授業研究の推進、地域の陶芸家や書道家等の協力による総合的な学習の授業推進等、教育内容の充実が図られている。	○外部講師との事前検討の時間の確保
山口市立 良城 小学校	○幼稚園との連携 ・学校プールの開放 ・校内音楽会リハーサルを幼稚園に公開 ・幼稚園児による授業参観	○幼稚園・保育園と小学校の双方で園児や児童に対する共通理解が進むとともに、園児の保護者に対しても小学校の様子が伝わり、「安心して入学させることができる」という評価を得ている。	○校区内に幼稚園等が30あり、連携対象園の拡大についての検討
光市立 浅江 中学校	○コミュニティ・スクール推進事業を支える学校組織 ・推進事業に係る3つのプロジェクトへの全教職員の割振 ○地域と連携した生徒育成 ・地域パトロールや「あいさつ運動」	○教職員間の共通理解が進み、共通実践が行われている。 ○地域との協働により地域住民との信頼関係が深まっている。	○生徒指導上の諸問題に係る地域との連携の在り方
防府市立 桑山 中学校	○地区学校連絡協議会や養護教諭連絡会の開催 ○駅前清掃等、ボランティア活動の実施	○児童・生徒に対する情報交換や共通理解が進んでおり、指導に生かされている。 ○地域からの信頼が増している。	○地域へのさらなる情報発信（対象範囲や情報量の拡大等） ○メール配信への加入促進
美祢市立 大嶺 中学校	○地域行事へのボランティア参加 ○コミュニティ・スクールや学校評価を学校運営に生かす工夫	○ボランティア活動により生徒の社会性や責任感が向上している。 ○地域住民の学校への信頼感が増している。	○外部人材活用を教員の負担軽減とする工夫 ○小学校での経験に基づく中学校での体験活動の充実（小中の連携）
県立 岩国 高等学校	○地域人材やOB、保護者が積極的に参画できる学校運営組織の在り方 ・本・分校共通の人材活用リストによる外部人材の確保 ・PTAとの積極的な連携	○教育講演会等、人材必要時に選考範囲が広がり、特に分校では人材確保が容易になった。 ○PTAの積極的な参加や、外部人材の協力により、学校における教育活動の活性化が進んだ。	○本・分校の特色ある教育活動それぞれに対応した多様な人材の確保 ○進学指導等の新たな分野でのPTAとの連携の研究
県立 山口 高等学校	○地域の多様な教育力の活用 ・教職員研修等での地域人材の活用 ・学校行事におけるPTAの協力 ・進路セミナー等における高大連携	○行事等の内容が充実してきた。 ○生徒に物事や社会を多角的・多面的に見る能力がついてきた。	○各課程や分校のニーズにあった地域人材等の情報収集と整理
県立 豊浦 高等学校	○同地区内の高校や諸機関との連携による車内指導や繁華街パトロール ○PTAと連携した登校時の立哨 ○外部人材による部活動指導	○地域が一体となって地域の子どもたちを育てようとする気運の高まりに貢献できた。 ○家庭における親子関係により影響を与えている。 ○外部人材の活用により部活動が活性化した。	○地域等との連携による活動拡大がもたらす教員の負担増への対応 ○保護者が学校行事に参加できる機会の拡大
県立 下関中等 教育学校	○スクールカウンセラー、就職支援教員の活用	○教員の業務負担が軽減されている。 ○専門家の配置により適切な支援がなされ、生徒が相談しやすい体制ができている。	○恒常的な活用、より多くの活用に向けた体制づくり
県立 下関南 総合支援 学校	○外部人材の学校ボランティアへの活用 ○他校との連携の推進 ○学校施設の開放	○生徒の体験の幅が広がった。 ○外部指導者の活用により、教員の専門性が向上した。	○幼児児童生徒の、地域における体験活動の幼稚園・小学部・中学部・高等部を通しての計画的・系統的な実施